



直感的に使える i+hubで会議の利便性向上を

企業名 日本アバカス
業種 システム開発
利用シーン 社内外会議
企業概要 1984年に第一貨物(株)の子会社として創業し、山形県唯一のIBMパートナー企業として、ハードウェアの販売、ソフトウェアの開発を行っている。



システム開発部
遠藤様

営業部 坂様

管理部 藤倉様

企業のITに関する困りごとを解決すべく、
システム開発やソリューション提案を行われている日本アバカス様。
今回は管理部 藤倉様、営業部 坂様、システム開発部 遠藤様にお話を伺いました。



i+hubを選んだ理由

- » 会議に必要な機器が一体化しており、会議における利便性を求めたため
- » オフィスになじみやすい、親しみやすいデザイン

主な活用方法

- » 会議で活用
タッチディスプレイならではの直感的な操作でだれでも使えるように
- » アイスブレイクアプリでお客様来訪の際のネタに



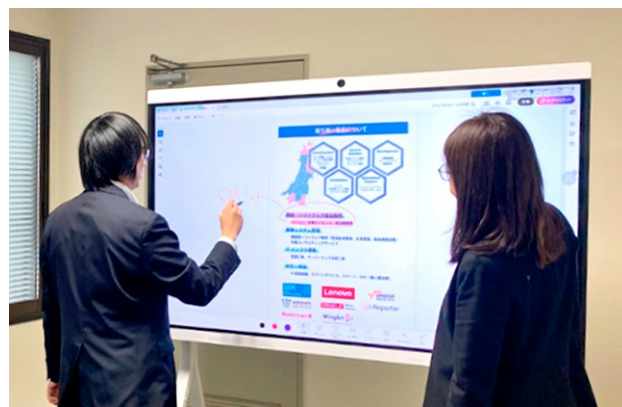
i+hub導入のきっかけ

イグアス:i+hubの導入経緯を教えてください。

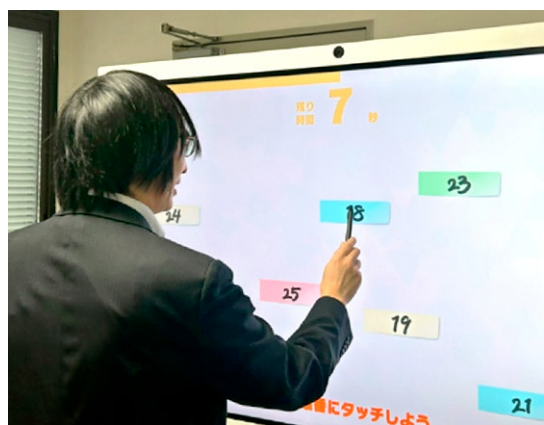
以前はWeb会議のために接続する機器が多く、会議室が雑然としていました。モニター、スピーカーマイク、カメラなどを接続していましたが、中にはドライバなどの関係で、一度で接続できていないものもあり、機器1つ1つを確認する必要が生じていました。また、会議においてメモを共有するなどの利便性を求めており、結果、i+hub導入を決めました。

イグアス:i+hubを選んだポイントは何ですか。

「カメラ」「マイク」「スピーカー」「手書きタッチパネル」が一体化していることはもちろんですが、デザインも秀逸であったため、親しみをもって使用できることです。通常のオフィス機器は黒を主体としたものが多いですが、i+hubは白を基調としているため、いい意味でオフィス機器らしくない、システムエンジニアらしくないデザインと感じました。会議室になじみやすいのではないかと思います。



直感的な操作性で会議が行いやすく



イグアス:i+hub導入前・後に変化はありましたか

会社全体の共有スペースに導入しましたので、社内だけでなく、お客様が来訪された時にも使用されています。今まで設置していたスピーカーマイクも撤去されましたので、みんなi+hubを使うしかない状況です(笑)。ホワイトボードへの書き込み速度もタイムラグがほぼなく、ペンで書いたらすぐ反映されるのでストレスなく使用できています。

スマートフォン等、タッチでの操作感覚が当たり前となっていて、中で「ピンチイン/ピンチアウト機能」など、直感的な操作感が大変すばらしく、会議にもいい影響を与えていると感じます。

イグアス:i+hubを導入されて、社内の皆様の反応はどうでしょうか

ITという業界ですので、社内では新しいものが来ると興味を持って触る社員が多く、拒否感などはとくになかったですね。i+hubはユーザビリティが優れているといえますが、普通こうだねと思うところにメニューがあるので、直感的に使いやすいことも大きいです。

営業ネタにもアイスブレイクを活用

イグアス:今後の活用について教えてください

アイスブレイクアプリは会議や研修を開始する前にもプレイしていますが、お客様が来訪された際にも話のきっかけになりやすく、盛り上がりやすいです。ゲームがアップデートして追加されていくと、「また新しいゲーム入ったからやってみませんか?」というふうに、お客様とお会いするネタになるのではないかと思いますね。

イグアス:イグアスでは今後もアイスブレイクアプリを順次アップデートしていく予定です。本日は貴重なお時間ありがとうございました。